



シャーリー・テンプルが踊り、
大河内傳次郎が大見えを切り、
阪妻がニヒルに笑う。

ただいま
見参!



電子書籍

昭和モダンを彩る
グラフ雑誌



演藝と映画

復刻版

演藝寫真新報



「演芸と映画」は、演芸映画文化向上という高き理念の下、演芸映画芸術の革新助成、鑑賞態度この誘致指導を標榜し、歴史寫真會が大正期に刊行された人気姉妹誌「歴史寫真」の10万人の読者の要望に応え創刊された。「演芸」「映画」のふたつのジャンルをダブル表紙とした意趣を凝らした雑誌のつくりで、グラビア・記事・イラスト・最新情報などが堪能できる。



セット販売価格：¥176,000を創業記念特価として、
約15%OFFの¥150,000(税別)にてご提供いたします。

※2025年3月末までにお申し込みの場合に限ります。



かかし

合同会社 かかし
107-0062
東京都港区南青山 2-2-15
winAoyamaビル UCF6F
tel:03-6403-5803
contact@kakashi-ebook.co.jp
<https://kakashi-ebook2024.net>

プラットフォーム

 **KinoDen**
Kinokuniya Digital Library
 **紀伊國屋書店**
デジタル情報営業部
ict_ebook@kinokuniya.co.jp
Tel: 03-6910-0518 Fax: 03-6420-1359
東京都目黒区下目黒 3-7-10 153-8504

演藝と映画

演藝寫真新報

復刻版

横に長いのは東洋の「風景」で、縦に長いのは西洋の「自我」と喝破したのは、雑誌『演劇界』のイラストレーターでもあった橋本治

だが、横長の、絵巻物のように開く写真誌は西洋には珍しいと思う。ところがわが国の演劇雑誌には、『演芸』（国際情報社）、『演芸写真』（演芸写真社）、『演芸写真帖』（大正通信社）などがあるが、公的機関に全揃いがなく、創刊から終刊までをおさえた研究が皆無であった。

歴史写真会発行の『歴史写真』の判型を借りた『演芸と映画』も同類であったが、これが復刻されるという驚きの成果である。戦時中刊行の『演芸写真新報』も、これまで顧みられることの少ない雑誌であった。巻頭に役者絵の復刻や着色グラビア、各座紹介ではプロマイドの再利用などもあるが、臨場感あふれる舞台面写真の意外な採録などもあり、ことに関西の劇場にも強いので、ありとあらゆる舞台面を見ておきたいという向きには必見である。

国立映画アーカイブは、前身の東京国立近代美術館フィルムセンターの時代から、所蔵する歴史的な映画文献の復刻に協力してきた。戦前期の映画界の動向をつ

ぶさに伝える「国際映画新聞」や「キネマ週報」といった業界誌のほか、そして映画公社が旧蔵していた戦時統制下の映画資料についても原本を提供し、復刻の監修を行っている。だが、この時期の文化をリードした活動写真／映画が多種多様な雑誌を生み出したことを考えるなら、現代への再登場を待つ文献はまだ多く残されていると言わねばなるまい。

1926年創刊の「演芸と映画」は、当時の最新の印刷技法を駆使した多色のグラフ誌「歴史写真」（1913年創刊）を発行していた歴史写真会が、時代の要望に応じて演芸と映画に特化したカラーグラビア雑誌として創刊したもので、当時の映画文化の急速な隆盛を伝えている（東京朝日新聞社が1924年に「アサヒクラブ」別冊として創刊した「映画と演芸」と混同なまよう）。今後も映画の興隆期が生み出した多くの文献が再び世に出ることを期待する。

推薦文



児玉竜一

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 館長
文学学術院文学部 教授

推薦文



岡田秀則

独立行政法人国立美術館
国立映画アーカイブ 主任研究員



●1アクセス～3アクセス共に同一価格。 ●各配信回 共に、分売可。

配信回数	発行年月日	セット販売価格(税別)	分売	分売価格(税別)
第1回	1926年(大正15年)	¥176,000 2025年3月末まで 特価 ¥150,000	①	¥33,000
	1927年(昭和2年)		②	¥88,000
	1928年(昭和3年)		③	¥55,000
第2回	1929年(昭和4年)	¥176,000 2025年3月末まで 特価 ¥150,000	④	¥88,000
	1930年(昭和5年)		⑤	¥88,000

販売対象機関：全機関